

「インパクト投資」をご存じだろうか。インパクト投資とは、投資行動によって金銭的なリターンを得ようとする

費者の認知度は低いものの、社会的課題の解決に繋がる可能性のあるインパクト投資について今回解説する。

と同時に、ポジティブで測定可能な社会的・環境的インパクト（価値）の創出を意図するものだ。インパクト投資の普及に努める機関はいくつかあり、社会変革推進財団がそのひとつである。同財団が発表する「インパクト投資に関する消費者意識調査」

は、米国のロックフェラー財団が主導して開催した、07年の国際会議で最初に用いられた。とはいえ、まったく新しい概念というものではなく、何らかの規範にもとづいて投資をする意味では1920年

（2021年度版）によると、日本の一般消費者

インパクト投資とは

代の米国において教会資産の運用で武器や酒などにかかわる企業が投資対象から除外されたところまで起源を遡ると、米国の非営利団体GII

（2079歳まで）41277人のうち「インパクト投資の意味を多少なりとも理解している人」の割合は、19年は6・8%、21年は6・6%と、現在横ばいの推移となっている。

このように、まだ一般の消費者の認知度は低いものの、社会的課題の解決に繋がる可能性のあるインパクト投資について今回解説する。

要素と位置づけられている。

ボルテックス 安田 憲治



一橋大学経済学研究所 教授
大手企業経営戦略の専門家
投資研究都市不動産客員研究員

「1つめは「意図があることだ。」投資の副産物として、社会や環境に良い影響を与える」というのはなく、「当初より、インパクトをもたらすことを投資目的の1つとしている」必要がある。環境・社会・企業統治に配慮している企業を重視・選別して行うESG投資と異なり、インパクト投資には必ずインパクトをもたらす意図が存在する。2つめは「金銭的なリターンがある」ことだ。社会的・環境的インパクトを生み出す投資となれば、金銭的なリターンは2の次であろうと考え

と量を高めていくための仕組みが重要である。ESG投資ではインパクトの測定を行わないケースが多い反面、インパクト投資では測定を行うことが必須となっている。

日本のインパクト投資残高は、インパクト投資の定義が各年度で異なっているために厳密な増加率を捉えることはできないが2015年度に170億円であったところ、19年度は3179億円、20年度は5126億円、21年度は少なくとも1兆3204億円となり、著しく規模が拡大してきている。世界全体のインパクト投資残高は、GIIが行った20年度の調査によると、把握できた限りにおいて約4兆円（4040億ドル）になっている。

近年ESG投資に対して「ウォッシュ（見せかけ）」と批判されることも増えており、「望ましい価値を実際に創出できているか」を測定するインパクト投資はその解決策となりえる。インパクト投資は、いま発展途上において国内の投融資に占める割合は少ないが、評価手法や信頼性などの課題を克服してノウハウと実績を積み上げ、価格差や地球温暖化といった社会的課題の解決につながっていくことが期待されている。

「3つめは「広範なアセットクラス（資産の種類）を含む」ことだ。実際に「プライベート・デッド」「上場株式」「プライベート・エクイティ」「実物資産」「公募債」など、さまざまなアセットが対象となっている。

4つめは「インパクトを測定する」ことだ。企業経営においてPDCAを回すように、創出するインパクトの質